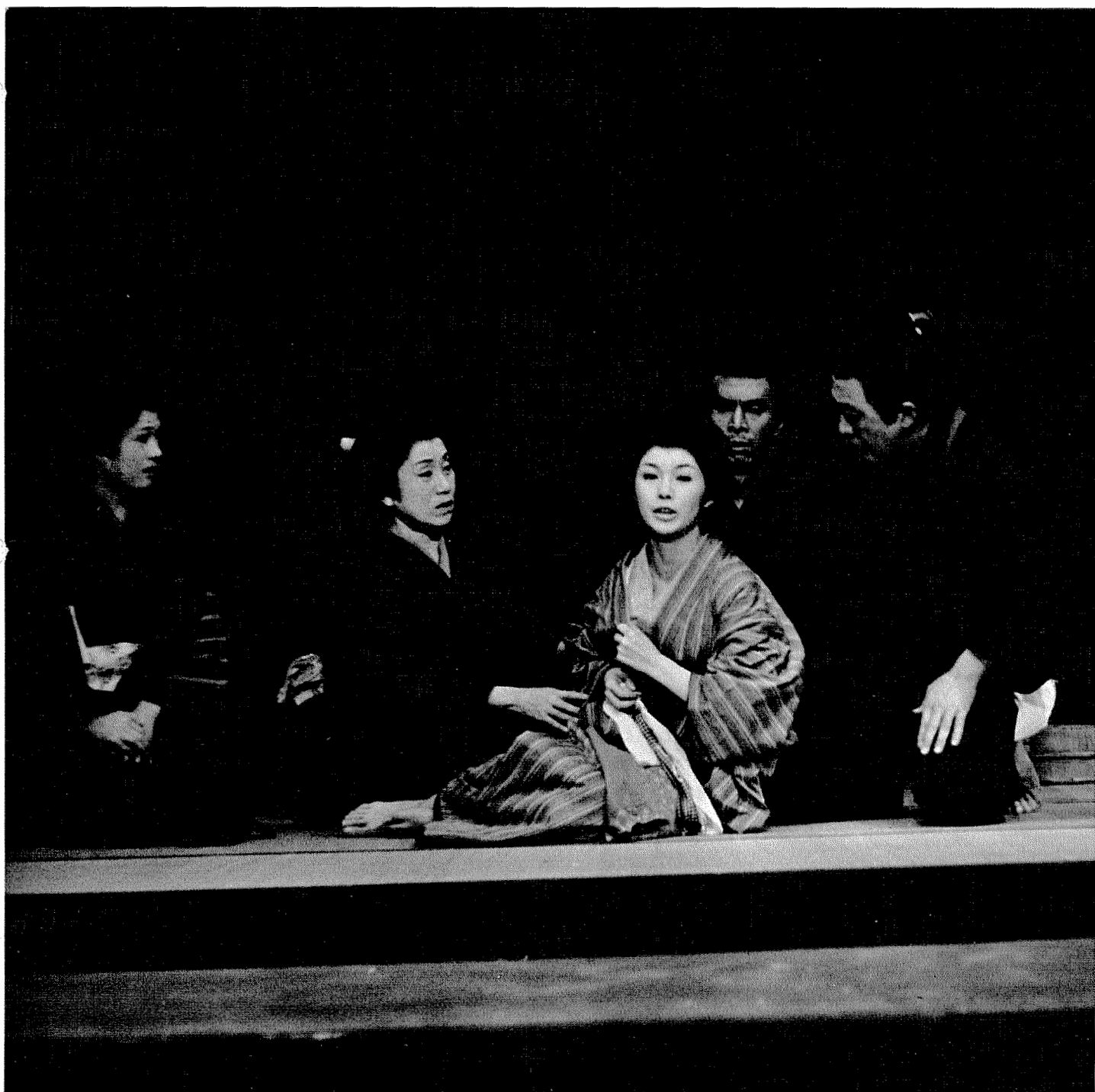


MARUMO LIGHTING NEWS

10月1日発行〈年4回発行〉
45-4号 ■No.10

マルモ・ライティング・ニュースは、43年10月1日発刊以来、本号をもちまして、10号となりました。その間、多くの方々から御援助や、激励のお手紙等々、頂き誠にありがとうございます。

今後とも、皆様の御活躍の一助となり得ますれば幸いと存じ、努力致す積りです。



ステージ系の仕事について

岩品 健介



「盲目蛤^{めいもく}に怖^{おそ}ず」の警え通り、書き出したものの既に2回目にして行づまりを感じています。

「初歩の舞台照明の手引き」読みすすんでいるうちに、常日頃痛切に感じていた事が、誰にも解りやすく、しかも理路整然と解説されているからでした。これこそ、待望久しきに亘った舞台照明にたずさわっている私達の書であったからです。

私達は、以外と、知らないことを知らないままに時を過ごしていたのです。と言うのも、照明という仕事が、文学的な一面と理科学的な一面を持ち、しかも、単なる理論のみでなく、実務的な要素を多分にもっているからなのでしょう。

私がこれから述べようとする話も、先輩諸氏より、主として叱責されながら学びとったものばかりなのです。

始めて舞台照明の仕事をする人は、一人で責任を有つ、ピン・スポットやソフト・アーク・スポット、または、ブレンカートを受け持つことは無理なので、見習かたがたステージ係をやらされます。

先づ、一般的なことは、セラチンを、打合せたプラン通りに入れることです。無論、セラチン番号を全く覚えていないで、先輩から指定されたものを、ただ、なんとなく入れているだけにすぎません。次いで、ステージ・スポットの設置と、舞台転換時にスポットの移動を覚えます。しかし、スポットを運ぶだけで、配線等は全然解っちゃいないのです。そして、綱元で、もっぱら、力のみを貸すことになるのです。

その頃は、相当に芝居心があっても、観念的にしかとらえていないので、自分が何をやっているのか解らないうちに、毎日の仕事はすぎてゆきます。時として、自分の好きなものになると、夢中^{まうちゆう}になって、

舞台に見惚れ、照明という仕事が、まだ十分に呑みこめていないので、彼は、自分が照明屋であることを忘れてしまうのです。

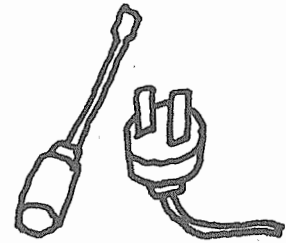
三ヶ月を経た頃、やっと、仕事の行きかえりに、電車の中で勉強したセラチン番号を覚えます。これで、プラン通りの色を揃えることができたのです。しかし、色の性格を、自分ながらに把握するには至りません。けれども、スポットの種類も覚え、どんな場合にどんな器具を使うかということは、解っています。綱元にもトンで行くようになっています。しかし、まだ、力を貸しているにすぎません。

六ヶ月目にかかる頃より、配線のキマリを覚えます。その劇場によるシステムを知るようになったからです。配線を間違えると、不要なものが点いたり、点くべきものが点かなかったり、ヒューズがトンだりすることが、わかってきたのです。

そして、またたく間に一年は過ぎ、二年目になります。彼は、もう、たいがいの仕込みはできるようになりました。けれども、転換にはまごつくし、スポットの当たりはまだ解りません。まして、サス・スポットの当たりまでは、手が届かないのです。

石の上にも三年、彼はソフト・アークをたくようになりました。四年・五年目、ピン・スポットを操作するようになったのです。ステージの仕込みは、専ら、サスの吊込みと、当たりになり、彼は、照明というものが、臍^{へそ}氣に解ってきたようでした。

六年目、細やかな仕事で、小さな調光室に入ることも許されます。慣れないオート操作も、少しづつ覚えました。愈々、舞台全体が見えるようになったのです。その頃になると、プランナーの意図も、少しは呑み込めるような気がします。プランナーの意



図と、自分の意志とによって、ステージの明りをキメるところまでできました。

彼は、ステージでは、責任者として、全体を掌握します。仕込みプランならびに、操作プラン表をみて、ステージの項をチェックし、プランナーの意志に沿うように、仕事をすすめることができるようになりました。

彼は、道具帖もみて、舞台転換のことも考慮にいられます。タッパの高さから、道具の位置から、すべてが稽古通りになっているか、知ることができました。

彼は、既に、八年を経過していたのです。例えば、ピン・スポットのフォローにも支障をきたさないように、タッパをキメることも、暗転中に、セットごとに違うカット・クロスに合わせて、ボーダーやエリヤ・バトンの位置をキメる早業もできるようになりました。また、暗転中の器具の出し入れや、配線の間違いのないように、工夫ができるようになりました。稽古中は、プランナーの横にいて、絶えず、プランナーの手足となり動けるまでになりました。

やがて……プラン作りの秘密を、ほんの少しづつ知ようになるのです。いうまでもなく、催物によって、異なる手法も身につけています。それでも、「手びき」には、ほど遠いことでしょう。

個々の方法に入るまでに、ステージ系の概略を通してみますと、ほぼ、以上のようになるかと思えます。そこで、もう一度、始めに戻って、遂条的にお話しすることにします。

先づ、第一に、「照明とは何か」ということです。それは一ト口と言って、「存在を照らすもの」でしょう。こんな、きまりきったことが基本になっているので、案外、この当前のことに気が付かないで、照明をやっている人が多いのです。

それに、「存在」という言葉の意味が、民族によって、時代によって個人によって、個人も人生を経るに従って、つまり、歴史の流れの中で、社会の変革と、少なからず対応の関係にあるようなので、各人の照明方法もまた、自づと変わってくるのでしょう。しかし、今は、その問題には触れないで、兎に角、解りきった初歩からやれば良いのです。

さて、これから照明の仕事をやろうとする人は、

どの団体に所属をしても、全くのフリーでも、プロは勿論のこと、学校および会社等のクラブ活動をするアマチュアのそれであっても、先づ、「初歩の舞台照明の手びき」を読もう。

そこには、まだ、一度も、舞台に縁のなかった人にも、私達のように何年か以上職業として照明をやってきた人にも、実務において、すぐにも役に立つ事柄が一杯入っていて、しかも、おそらく、これからはずっと、手許に置いて、折りにふれて見るに堪え得る内容をもっているからです。

そこで、諸君は、しっかり、舞台機構と器具の名称とその役割、ゼラチン・ペーパー、プラスチックの色をよく覚えるのです。これなくして、プロの照明家の卵にはなれません。単なる趣味としてでも、本筋に入ってゆくにしたがって、基本から正確にマスターしなければならぬと思ひ込むようになるでしょう。

これからが、私の受持です。ゆくゆくは、各ゼラチン・メーカーの色が、再統一される運びにあることは、皆さんも周知のことと思いますが、今は、旧ゼラチン・ペーパーによることにしましょう。

ゼラチン番号の覚え方は、その日その日の、自分の扱った色を、確実に、自分のものにしてゆくことから始まります。ステージならば、しかも、ステージ・スポットに使用する色は、そんなに多くはありません。

歌謡曲ならば、

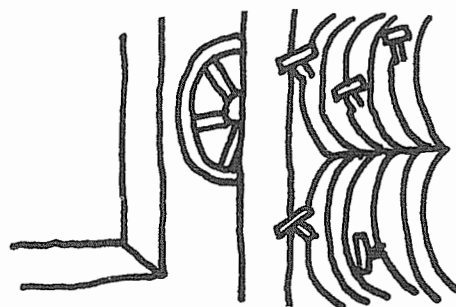
#86 #87 #85 #77 #78 #62 #61 #59 #57 #41 #33
#34 #22 #21 #15 #14,

多少の好みはあっても、この中の各一色宛を、各系統色ごとにとればよいのです。

芝居ならば、

#87 #79 #78 #74 #65 #64 #59 #58 #57 #46 #45
#44 #38 #37 #35 #24 #22 #21 #16 #15

の、各一色宛を、やはり系統ごとにとればよいし、オペラや、バレエの、カガミ当てに#00を他の色にかぶせて使う場合もあります。ともあれ、その日一日に使うゼラチンの色は、せいぜい八色以下の場合が多いのです。プラスチックでは、#41が#40であり、その他の色も、材質が違う関係上、少し趣を異にしていますが、これからの人は、区別して覚える方がよいのです。その他、



地明りでは、

#72 #77 #78 #65 #64, #45 #35 #33 #15 #22 #85, (地明りとしての#85や#22は火事や、幻想的な場合になります。)

U・Hに、

#76 #71 #72 #75 #78 #86 #63 #59 #22 #84 #85,

L・Hに、

#72 #75 #77 #78 #65 #64 #63 #59 #58 #55 #41
45 #33 #34 #35 #22 #21 #15 #14

も知っていれば大体は事足りる筈なのです。この例で、既におわかりになったと思うのですが、色の代表的なものを覚えて、その上で、色感の差異を自分流にとらえてゆくのです。

すなわち、Paでは#86 #85 #83

D.Bでは#71 #72

L.Bは#78 #65

B.Gでは#63

Gは#55 #56 #57 #58 #59

Yは#41 #45 #

Aは#33 #35 #37

Rは#21 #23 #24

Pは#13 #15 #17位でしょうか。

「手引」の中でも、一般的なカラーフィルターの種類が出ていますから、最低、先づそれだけは知ってなくてはならないのです。

ただ、必ずしも、色の番号順に覚えやすくなっていないので、個々の人が、自分流に系統づけて覚えることが望まれます。

ひと仕事が終わって、自分一人になった時、電車の往復等に、そっと手帖を出して、あるいは、色見本帖を見比べながら、色の性格を掴んでゆくのです。

例えば、#86と#87の差は、色の濃淡の差なのですが、

#85は赤味があった紫(パープル)です。

#15は純正桃色(ピンク)ですが、

#17は少し橙色(オレンジ)が入り、その上、淡色になり、

#83は#15に紫(パープル)がかかった、#84 #85の系列上の淡色になるわけです。

そして、一番覚えにくいところが、B(ブルー)とB・G(ブルーグリーン)、G・B(グリーンブルー)G(グリーン)・Y(イエロー)がかかったG(グリーン)

ということになるでしょう。

すなわち、#66は#65(ライト・ブルー)の次の番号であっても、むしろB・G(ブルーグリーン)系の淡色であり、#75がトンでくると、#63に近くなるのも、#75がD・B(ダークブルー)系ではよりG(グリーン)に近く、#63が、B・G(ブルーグリーン)系ではよりB(ブルー)に近いことを意味しています。

そして、G(グリーン)系にしても、#59のG・Y(グリーンイエロー)系淡色と#58純正G(グリーン)系代表と#55の濃G(グリーン)と#56濃G・Y(グリーンイエロー)と#57は#58よりY(イエロー)がかっている感じの純G(グリーン系)、

そして、#61 #62の#57よりさらにB(ブルー)系が少し入ってくるものとの細やかな差が、色のニュアンスをつくっているのです。

そのニュアンスの差異を、デリケートにうけとめてゆくには、ゼラチン・ペーパーをよく見ているだけでは、おぼつきません。

むしろ、絵画的鑑賞眼が木目細かなうけとめ方を可能にします。これは、統一カラーフィルター基準ができれば、その時に、表にまとめてみるのも、また、一興かと思うのです。

けれども、因に、基準番号を定めて覚えることは、伝達には科学的で非常によいのですが、それを、われわれの頭脳に翻訳する作業は、あくまで、総合の感覚によらなければならないのでしょう。

日本人のもつ色彩感覚を、いいふるされた色彩観念によって、照し合わせながら、われわれは、欧米との対応を試みます。つまり、萌黄色は、#56とか、浅黄色は#59とか、茄子紺は#76に似ているとか、私については、そのような連想作用で、自己流に色を覚えました。

例えば、西欧にはコバルト・ブルーの空とか、マリン・ブルーの海とか、人間は、自然から覚えた色の基準をもっているのです。

すなわち、われわれは、そこに行かなくとも、地中海の空はコバルト・ブルーで、海はマリン・ブルーだと観念的にそう思い込んでいるのです。このようにして、諸君は、ゼラチン番号と色との関係を諸君なりによく呑み込むことができたのです。

(次号へ続く)

日本照明家協会のご好意により日本照明家協会雑誌より転載させて頂きました。

舞台照明と電気の基本知識——4

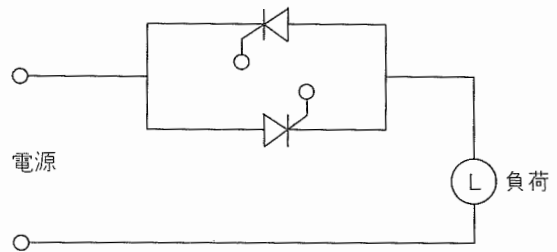
やさしい調光器の知識

丸茂電機(株)技術部
樋口 七生

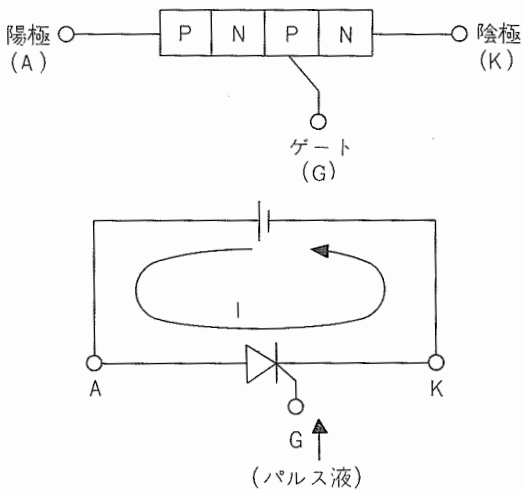
(4) SCR調光器

変圧器は純然たる機械的方法により電圧を変化させる調光方式ですが、SCRの発明(1958年)により、電氣的制御による調光方式として、SCR調光方式が世界中で開発されるようになりました。

SCRとは、Silicon Controlled Rectifier(シリコン制御整流素子)の略称でPNPNの四層から成る半導体素子です。



(fig-6)

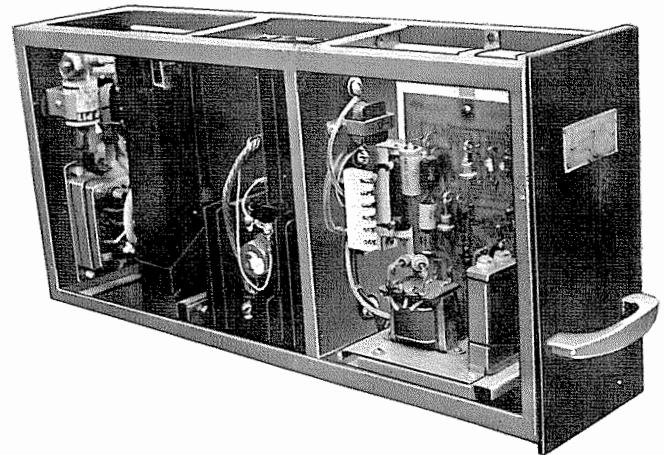


(fig-5)

SCRの両端に順方向の電圧を加えますと、PからNへは電流は流れますが、NからPへは流ることが出来ないため、電流は阻止されます。

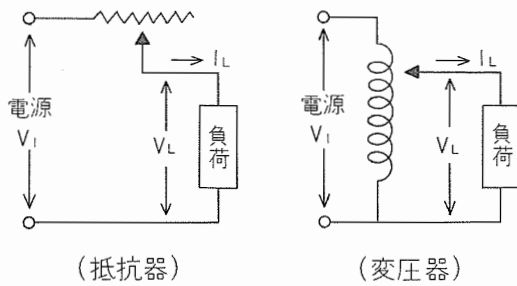
ところがゲートに微弱な電氣信号を与えると、中央のN・Pの電流阻止作用が消滅して一般の整流体と同じような特性を示し、従って、陽極から陰極へ電流が流れます。

実際の回路としては、電源が交流ですので(fig-6)の如く、2個のSCRを逆並列に接続し、それぞれ交流の半波ずつを分担しています。

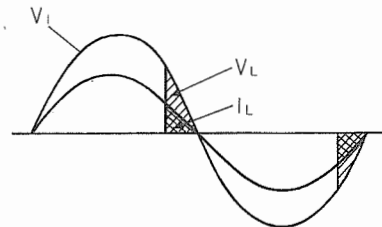
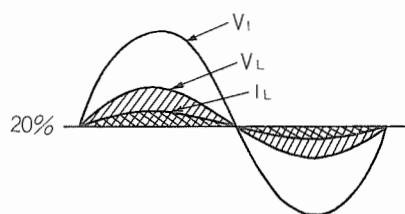
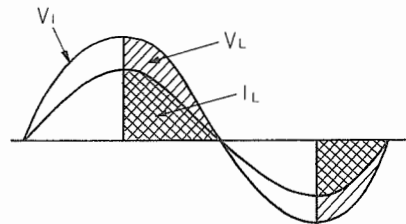
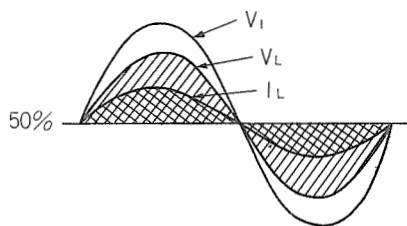
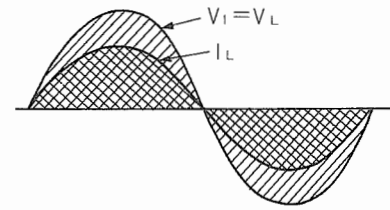
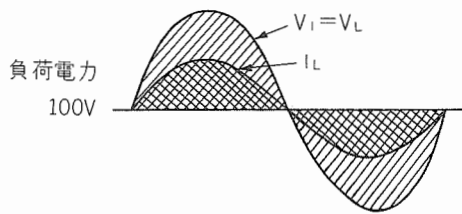
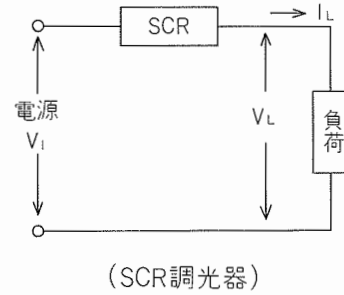


ゲートに電氣信号(パルス波)を与えなければ、回路には電流が流れず、負荷の電球は点灯せず、ゲートへの電氣信号(パルス波)を位相制御することにより負荷に流れる電流を変化させて調光を行います。ここで、電圧可変方式と電流可変方式の調光方式を比較してみますと、

〈電圧可変式〉



〈電流可変式〉



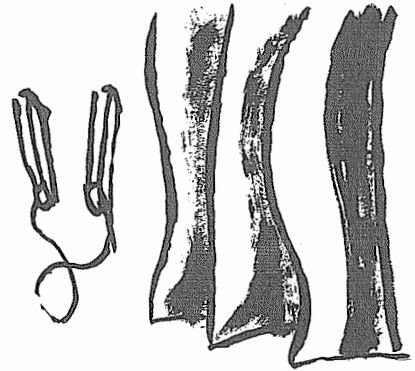
このようにSCR調光器は、パルス波による電流位相制御方式であるため、SCRユニットを収納したラック盤と操作卓とは、操作線を接続するだけで済み、操作卓は照明操作を最も行いやすい任意の場所に設置することが出来、従来の機械的制御では全く実現出来なかった、さまざまな巧妙な調光効果を極

めて容易に実現出来るようになりました。

SCR方式が小型で場所をとらず、操作スケジュールが確立すれば、容易にワンマンコントロールも可能であるところから、今や、変圧器方式から、SCR方式へと移り変わり、世界中にこのSCR調光方式が普及されてきました。

舞台用語について—その3

柘植 貞輝



④6 大臣柱—だいじんばしら

歌舞伎劇場の舞台上手，チョボ床と舞台を区切る柱。能舞台から出た名で，脇の大臣がこれに近く著座するところからこの名がある。

④7 見附柱—みつきばしら

歌舞伎劇場の舞台下手，お囃子部屋と舞台を区切る柱。能舞台から出た名で，この柱は月とか花とかを眺める標準となったのでこの名がある。

註：上記の両柱を普通は上手，下手の大臣柱という。

プロセニウムアーチの柱が大臣柱と同じものだと思っている人がよくいるものである。

④8 大臣通—だいじんどおり

上手，下手の大臣柱をつないだ線をいう。定式線ともいう。二重屋台はこの線より奥に飾るのが定式となっている。

④9 緞帳—どんちょう

舞台と観客席とを隔絶させるために，舞台額縁の上部から下げる幕である。普通のものはその下縁に一本の鉄管を入れて重りとし，上縁に入れた鉄管に数条のロープ（ワイヤー又は麻）を結び，これを所要数の滑車を経て舞台側方の床上で上げ下げする。人力に依る場合と動力に依るものとある。

緞帳の昇降の速さは上演されるものによって違うから，動力によるものは速度調整の装置がほしいものだ。

緞帳には下縁に鉄骨を入れずに，緞帳の裏側（舞台側）に掛けたロープの仕組みによって種々の形に引き上げる事が出来るようにしたものがある。これを絞り緞帳という。

緞帳は芝居の一区切り，時間の経過を示し，又道具の飾り替えを観客の目からかくすために使用する。

⑤0 割緞—わりどん

わりどんちょうのことをいう。中央から2枚に割れている緞帳で，これには中央から上手下手に引かれて開くのと，中央から上手下手に引かれて斜め上開きのと2種ある。〔中央は上手下手の2枚が十分に（50cm以上）重なり合うように作る必要がある〕

⑤1 引幕—ひきまく

どんちょうと同じく，舞台と観客席とを隔絶させるために，舞台間口上部にワイヤロープを引き渡し，それに環を通して幕を下げたものである。

引幕は下手から上手に開き，上手から下手に閉じる。これは日本独特のものである。

⑤2 定式幕—じょうしきまく

歌舞伎芝居には是非共必要な幕で，劇場に一定されて備え付けられている。黒色柿色、萌葱色の3色の堅縞である。

⑤3 飾り—かざり

大道具を組み上げることで「飾り込み」「建て込み」「組み込み」などいろいろな呼名がある。この飾り込みにも沢山の種類がある。

⑤4 バラス

飾り込んだ大道具（舞台装置という方が適切である）小道具、照明器具などを取り外し、かたずけることを意味する。



中部舞台テレビ照明家協会会報「彩光」は、32年発刊以来、本年7月No.112号を以って、日本照明家協会雑誌に統合されました。マルモライティングニュースでは記念すべき「彩光」の名前を残し、プロ照明家の頁、愛読の頁としたいと思います。ご投稿をお待ちします。

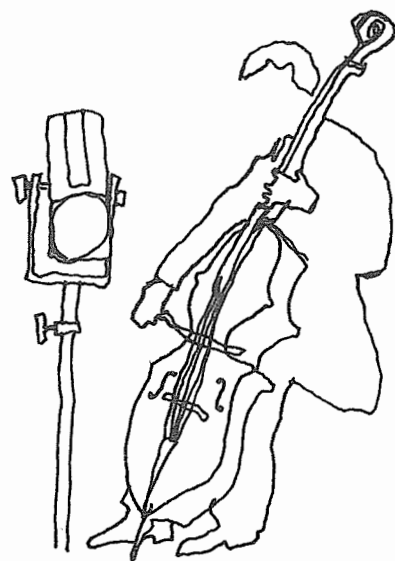
一裏方の日々のあれこれ

中日劇場

柘植 貞輝

ほんとうに重い物を持たせないと、重い物を持っている演技の出来ない俳優、あわてて走っていると見せかけて客を笑わせようとしても、それが走っている姿の戯画化されたものとして客に伝わらず、客席に笑いを沸かせない喜劇俳優。こういう俳優達が商業演劇の舞台稽古の際「エライ」俳優によく叱られている。そして“もっと工夫してみろ”といわれている。

こんな事はいったい「工夫」することなのだろうか。重い物を持ち歩く時、担いだとき、自分の体の筋肉、首すじ、腕、両足がどんな状態になっているのか。俳優なぞという大へんな仕事をしようとしている者が、何と自れの肉体の夫々の瞬間を無意識に生きているのだろうか。走る時、どうやって体の重心のバランスをとっているのか、膝はどれくらい曲げるだろうか、これも常々経験していながらやはり唯々無意識なだけらしい。その正常な



走る姿から何を問引いたら、どこのテンポをくずしたら客を笑わすことが出来るか。これだけは「工夫」になるのかも知れない。

—————○—————
センタースポット・オペレーター達が、直流アークスポットを交流アークスポットにしてほしいという。何故かと反問したらその返答が何ともなさけない。

曰く、直流アークの方が交流アークより光は確かに奇麗だし明るい、しかしアークのたき方が直流はむづかしいが交流は安易だ、だから交流アークにしてほしい。

舞台照明という仕事に興味や意欲や、生き甲斐をもって入ってこない近頃のことである。私などには思いもよらぬ申し出に、一瞬は呆然とし、次に怒りが、そして今思うことは、直流アークをたく者には交流アークをたく者より給料を少し多くすればいいんだなど。

ベルリン・アマティ弦楽合奏団の演奏会があった。コンサートマスターが遅刻した。しかし演奏は定時に開始された。そしてコンサートマスター不在の楽団がかくもガタガタの演奏をするという見本のような演奏だった。

もっとも、コンサートマスターが加わってからも宣伝とは程遠い演奏ではあった。要するに月並の外タレ楽団の本邦来演ということに尽きる。

しかし、それよりもコンサートマスターの

遅刻が我々の常識以前であった。彼の妻君の乗った旅客機の到着が遅れたので、その到着まで大阪にすわって、楽団一行と乗る筈の新幹線に乗らなかった。遅れた旅客機の妻を迎えてから新幹線に乗って一行より遅れること優に1時間半、即ち開演後 $\frac{3}{4}$ 時間とは相成った次第であった。名古屋でのお話し。

もっとも東京でも、出演する劇場の向い側のホテルで寝過ごしして、一本出演しなかったという主演喜劇俳優がいるご時勢なのだ。

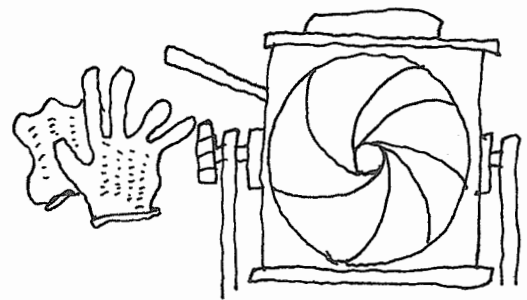
変な話

愛知県勤労会館

丸田 悦夫

昔、この日本の国に帝国海軍航空隊というものがあった頃の話である。ここでは、飛行事故を起した場合、飛行時間が300時間に満たない者は始末書を書かなくて済んだものである。ということは、逆にいえば飛行時間、300時間に達しない者は始末書を書かさしてもらえなかった、つまり始末書を書く資格がなかったということである。始末書を書くには、始末書を書くだけの責任のとれる者であることが必要であって、その資格のない未熟者からは始末書をとらなかったということである。

扱て、最近はこの照明の分野でも人手不足は深刻な問題であるが、それでかどうかは知らないが、スポットライトの操作の未熟さが大変目立つ。そして、その場のチーフ・オペレーターが、これらのスポットマンを叱っているのをよくみかける。叱るのもおおいに結構なことであるが、さてこれらのスポットマンの経験を聞いてみると驚くことには、なんとこの道に入って一・二ヶ月といったものが



いる。ひどい時には、センターのスポットマンが半年足らずの者であったりすることがある。私はセンターのスポットマンは、アークにしろ、普通のランプスポットにしろ、少くとも5年以上の経験を積んだ者の受持つポジションであると思っているので、これを聞いて啞然としたのであるが、これでは下手くそなのが当たり前、叱る方が無理だといいたい。私は人にもよくいうのであるが、この道に入って一年未満の者には叱らない事になっている。これはへまをするのが当然であって、叱る方が間違っていると考えているからである。プロとは責任のある仕事をするべきである。アルバイトで出来る仕事ではないと思うし、アルバイトを使って金のとれる仕事でもないと思う。照明がアルバイトを使って出来るのなら、全く気楽な稼業であると思う。全く不可解なことである。

次号、彩光のメ切は10月30日です。どしどし御投稿下さい。採用の分には粗品を進呈します。

《読者の声》



私達はアマチュア劇団“やまなみ”として、北海道旭川にて劇団活動を行っています。団員数は38名で結成、7年目を迎えております。

私達は“地域に根ざす働く者の演劇”を目標として創造活動を行ってきました。

今年は、1月～4月まで小劇場公演として職場、農村へ5回、チェホフの“人を喰った話”を、5月には旭川市の行事で“憲法を守る会”にて本田英郎の“神通川”再演、6月には東西公演’70演劇行動に参加。現在、小劇場公演として“人を喰った話”“夜”“風が風を弾薬がCo 60”を持って回っています。

10月下旬には大橋喜一“ゼロの記録”を予定しています。“ゼロ”は私達が2年半もあためていたもので、4月には大橋さん呼びまして種々とアドバイスをうけました。

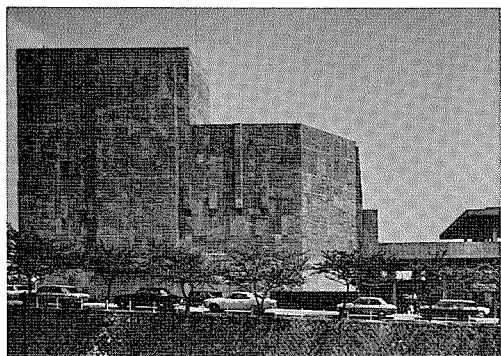
私達の劇団内は演出部、企画部、舞台制作部と有り、私は舞台制作部に属しています。それでライティングニュースを大変有効に利用しています。先日も小劇場公演に持運びに便利な配電板を、ライティングニュースNo.2を参考として作りました。公演時にはカラーフィルターの使い方も役立たせています。

現在、私達は総会を開いており、舞台制作部として創造面の確立、資料作り、プラン制作の在り方、計画的に器具を揃える事等が展望として打出されています。

マルモ電機の皆様、ビジネスだけではなく芸術、技術創造の普及のための努力を続けて私達の正しい発展への援助をお願いします。

北海道旭川市春光台2条4丁目11の13
劇団“やまなみ” 高 桑 修 一

劇場めぐり



芦屋川畔の緑の多い明るい環境の中に、自然な都市空間と市民の集いの会館として、70年4月に完成した。南北31m東西28mの短形のオーデューは地階は小ホール、1・2階がホワイエ、楽屋、3・4階が観客席・舞台となっている。市民の集会をおこなうためのホールを造ることを第一の目的とし、文化都市芦屋にふさわしい活動もできるように設計されている。観客と出演者が一体となった空間、変動する舞台芸術に充分対応できる空間、そうした劇場空間を創り出すべく、サイドステージ、バック

クステージを7枚のはね上げ舞台とし、オーケストラピットの迫りを組合せ、6種のステージタイプを構成する。

照明、吊物、音響などこれに対応できるようになっている。

舞台照明設備は、マルモSCR調光装置6kw 45台、負荷回路184、ボーダーライト3列、サスペンションライト2列の外に、トップサスペンションライト3列を設けており、又センターアーク・スポットライトに2kw クセノンスポットなど特徴となっている。



オーム社発行
大庭舞台美術研究所長
大庭三郎著

舞台照明の実際

昭和30年11月の初版のものを改訂し再版されたものです。

内容は、 舞台照明の発達
舞台照明の定義
舞台照明の要素
舞台照明の設備
投射器その他による照明効果
カラーフィルター
操作と設計
舞台照明記録 などです。

著者は舞台照明に40年、実際と研究に従事し、現在、東宝専属舞台照明家で、帝国劇場や東京宝塚劇場などの照明デザイナーとして活躍しています。

照明学会員、日本演劇学会員、
米国照明学会員、米国テレビ協会員

初歩の舞台照明の手びき

中部舞台テレビ照明家協会発行
頒価 1,100円
送料 100～230円

“舞台照明の実際”“初歩の舞台照明の手びき”
はマルモでも取扱っております。
御希望の方は、お申し込み下さい。

舞台照明とともに50年

日本照明家協会の初代会長になった

小川昇

◎…東京、中京、関西に分かれていた照明家の三団体が合同し「日本照明家協会」がこのほど発足。舞台とテレビでスポット・ライトをあて俳優を引き立てている縁の下での力持ちが、会長に選ばれて“脚光”を浴びた。

「車に乗ってるあいだは意識しないけど、ガタンとぶつければ運転手が下手くそだといわれます。照明も、間違えれば目につきますが、お客さまが意識しないで見てくだされば成功、というのが僕の持論。劇評でもとかく無視されがちですが、不満を感じない人でないと長続きしません」

◎…この道五十年の最古参はかげの地味な存在に甘んじ続ける半面、フリーで七月歌舞伎座の「出雲の阿国」九月は新橋演舞場・新国劇の「人生劇場」明治座・新派の「連月尼」など話題の新作の照明を次々たのまれ、七十二歳とは思えないほど若々しい情熱で活躍。

「しかし、話題になりたがる人もいますから、僕のことより照明に目を向けていただきたい。励ましになりますから……」会員に代わって訴える。

◎…最近、帝劇や国立劇場のように、階上の客席後方の完備した照明操作室で自由にコントロールし、客席から操縦者が見えないほど進歩したが、小川会長が上野の美術学校に通っていた大正のころは、舞台上と夜の区別も家の中と外の区別もつかないほど幼稚だった。

「あそこ芝居を見るたびに気になり、報知講堂の友田恭助さんの芝居で、試みに投光器を使ってみたら日が当たってるように見えて喜ばれましたね。あいつ便利だとあっちこちから重宝がられ、こっちも面白くなって美校を中退」電光と共に歩んできたという。

協会の会員は八百人。「公共の団体にして意識を高め技術を向上させたい」会長の初仕事に社団法人を申請している。

(45年8・11付中日新聞)

舞台・テレビ照明設備の
トップメーカー

“マルモ”で
働きませんか



職 種 営業部員・劇場、テレビスタジオ
などに照明設備をセールス
現 業・配電盤やスポットライ
トの組立
一般事務
勤務場所 本社，東京，名古屋，大阪営業所，
東京工場
待 遇 初任給
高校46年卒・男35,500円
女34,800円

応募の詳細についてのお問い合わせは、

東京都千代田区神田須田町1-24
丸茂電機株式会社 総務部 人事係
片 岡

●お問い合わせご商談は

東京営業所 東京都千代田区神田須田町1-24
TEL (03) (252) 0321(代)
名古屋営業所 名古屋市中区栄4丁目1-1中日ビル
TEL (052) (261)1111 (425)
大阪営業所 大阪市北区神山町32
TEL (06) (312) 1913

●取扱店



大分市の水族館，マリーンパレスに，アンデルセン童話の「人魚姫」の複製ブロンズ像がデンマークから贈られた。背景のコペンハーゲン港が，朝焼けから波の動き，雨が降り，虹がでて夕焼から夜に入り，満月がのぼる。停泊中の船の灯に人魚姫がはえる，といった光の演出がおこなわれる。

いづれもマルモ自動調光装置，エフェクトマシンなどによって効果を作っている。

*

第16回全国高校演劇指導者講習会が，8月4日から6日まで岐阜市民会館で開催された。

期間中会場内で，マルモの照明器具の展示をおこなった。

*

丸茂電機株式会社社長・丸茂富次郎は，日本演劇協会（会長・北条秀司）より永年，演劇界に貢献した功により，7月29日，感謝状を増呈された。

これは昭和40年7月，同協会より表彰されたのに引続き2度目である。

*

8月11日の中日新聞の“登場”というコラムに，小川昇氏が登場した。東京，中京，関西に分かれていた照明家の三団体が合同し，「日本照明家協会」が発足した事を取りあげたもので，その初代会長になった同氏の，この道50年のキャリアと今なお若々しい情熱で活躍する近況を紹介している。

●取扱店

北電力設備工事(株) 札幌市南2条西12丁目
TEL (0122) (24)3911
(株)東京舞台照明 東京都渋谷区千駄谷3-51-4
TEL (03) (404) 2611
若尾綜合舞台研究所 名古屋市中区栄4丁目9-26
TEL (052) (241)5652
福岡市民会館サービスセンター
福岡市天神5-1-23
TEL (092) (75) 6474

発行 丸茂電機株式会社
東京都千代田区神田須田町1-24
編集責任者 井上利彦
製作 出牛亘
デザイン・レイアウト

(不許・複製)